姶良歴史ボランティア協会広報誌　第20号　　発行日：平成25年11月10日（日）

あいらの歴史と物語

発行責任者：姶良歴史ボランティア協会
会　長　橘木　雅晴
編　集　者：広報部　松下　澄行

連絡先：〒899-5421　鹿児島県姶良市東餅田498　　姶良市歴史民俗資料館　TEL 0995（65）1553

さつま町史跡探訪

興詮寺内陣（県文化財指定）

松尾山興全寺跡

恒見勝則

興全寺は、永仁（えいにん）５年(1297)祁答院渋谷氏（けどういんしぶやし）４代行重が、父重松の霊と子孫繁栄を祈願して建立した天台宗の寺で、当初は松尾寺といいました。しかし、地形がよくないとの理由で、応永18年(1411)現在地に再建し、興全寺とあらためました。

開山は紫尾神興寺の琳春、本尊は千手観音で湛慶の作といわれ、観音の脇侍として、持国天・毘沙門天（びしゃもんてん）を祀（まつ）りました。

明治２年(1869)の廃仏毀釈で県内の寺はほとんど壊されましたが、ここだけは桂樹院殿(お下)の位牌堂（いはいどう）で寺ではないとの理由で、取り壊しを免（まぬ）がれ現存しています。これが現在の本堂で、一部京都から移したものといわれ、用材はほとんどが楠（くす）で古色蒼然（そうぜん）としています。内陣は鏡天井で２頭の龍が描かれ、また、一対の鳳凰（ほうおう）の欄間彫刻などもあり、文化財としての特長を残しています。

一時無住職の状態でしたが、昭和16年(1941)に浄土真宗佐志普及所として許可され、寺の名称も興詮寺（こうせんじ）とし、住職も常住となりました。

境内入口山手に、お下の墓があります。お下は島津氏第17代義弘の娘で、第18代家久を兄とし、一時伊集院忠真の室、のちに宮之城家第3代久元の後室となりました。

本堂内には、お下ほか３名連記の位牌が伝えられています。

宮之城史跡案内（研修報告）

宮之城領主館

橘木　雅晴

宮之城島津家は、慶長５年(1600)年、東郷領主島津忠長が、宮之城地頭となり虎居城に移った時に始まります。正徳２年(1712)には「一所持」の家格が与えられ、その中でも宮之城・日置・花岡・都城四家は特に重んじられ、これに一門家四家を加えて八家といわれました。

安政５年(1858)、第15代宮之城領主島津久治は、領主館の地に文武館を建て、学問所を盈進館と名付けました。現在の盈進小学校の起こりです。盈進とは、中国の孟子の教えで「水が穴を満たしてから初めて進むように、学問も順序を踏まえてから進むことが大事である」ということを意味しています。

久治は島津久光の二男として重富島津家に生まれ、後に宮之城島津家の養子となり家督を相続しました。

黄龍山大願寺跡

佐土原　保子

大願寺は、鶴田柏原の国道267線の段々畑一帯にあった薬師如来を祀る寺院で、創建は渋谷公重です。祁答院渋谷氏の菩提所であり、しかも代々の墓地になっています。

開山は一関宗万国師で、起宗宗胄和尚を初住に迎えて、古くは白鳳期（670年代）の創建と伝えられています。大願寺の盛んな頃は、十有余の坊舎が軒を連ねていましたが、次第に衰微して、形ばかりの堂宇も荒れ果ててしまいました。

明治９年(1876)、時吉や柏原で牛馬の悪疫が流行し、家畜が全滅する事態がおこりました。川内の易者に占ってもらうと「大願寺に古い墓がある。供養を頼む」というお告げがあり、両村総出で藪払いをしたところ、多くの墓が発見されました。それらを一ヵ所に集め供養しました。

蒲生氏と渋谷氏

-さつま町歴史探訪に参加して-

ボランティア養成講座生　梅田　真次

蒲生氏は、初代舜清が保安４年(1123)蒲生の地に居を構えてから、第18代範清が弘治３年(1557)島津氏に敗北するまで約430年、この地を支配しました。

同様に祁答院氏も、宝治２年(1248)渋谷氏三男重保が、宮之城に入り祁答院氏を名乗って以来、第14代良重が、永禄９年(1566)居城の虎居城で島津氏一族の娘であった妻に殺されるまで、約300年宮之城の地を支配していました。

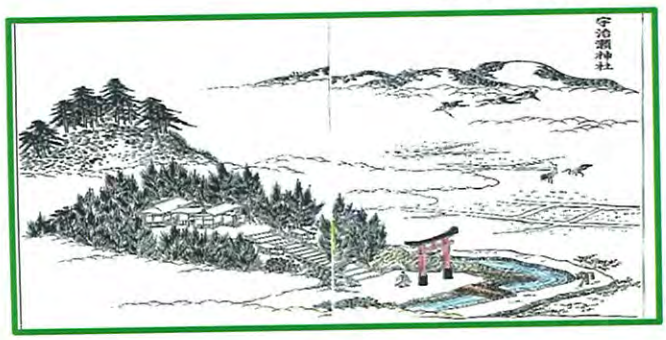
大隅合戦で敗北した蒲生範清が、祁答院氏を頼って落ちのびたところまでは、『蒲生郷土誌』に記述されています。

今回の研修で、その後範清は虎居城川向うの松尾城の将として、良重とともに島津氏に抗して戦い、良重死後は入来院氏を頼り、隈之城に食邑を得て天寿を全うしたことを知り、感銘をうけました。

伊敷方面と吉田地区（研修発表）

鹿児島神社

吉田　茂子



鹿児島神社は、貞観２年(860)には、鹿児島湾に浮かぶ神瀬(かんぜ)の小島にすでに建立されていました。応永年中(1394～1428)、島津家第７代元久によって草牟田に移建されました。元久は、島津家菩提寺福昌寺を建てた人です。藩政時代には家督を相続すると、まず初めに当社に参拝することが例とされていました。別名「宇治瀬神社」ともいい氏子たちには“ウッテさぁ”と呼んでいました。宇治とは水の渦巻く様子をいい。瀬とは水の激流する様子をいいます。古来、社(やしろ)の前の川は宇治瀬川と呼ばれてきました。

神事例祭が行われる２月・10月を神月(こうずき)といい、宇治瀬川が神月川とも呼ばれ、現在の甲突川になったという説があります。また、鹿児島神社は田の神舞発祥の地でもあり、舞姿は古典的な能に近いといわれ、現在も継承されています。

薩南学派の祖　桂庵玄樹

竹之下　洲一

鹿児島市伊敷町に桂庵玄樹の墓があります。玄樹が晩年を過ごした東帰庵の跡地です。

応仁の乱により京都が荒廃すると、文化人たちは地方の大名を頼って下向しました。桂庵玄樹は、文明 10 年(1478)島津忠昌の招きで鹿児島に入り、磯の田之浦に桂樹院を建ててもらい、禅宗や朱子学を教え多くの門弟を育てました。朱子新註の『大学章句』を刊行したり，『四書』を日本語読みできるように和点をつけ『家法和訓』を著したりしました。

桂庵が起こした学統を薩南学派といいます。薩南学派の教えは、義久・義弘・家久に仕え、加治木安国寺などの住職を務めた文之玄昌によって、天下に広まっていきました。

近世儒学の祖といわれる藤原惺窩(せいか)にも、多大な影響を与えたといいます。

吉田の「念仏かくれ窟」

恒吉　一洋

鹿児島市吉田地区の都迫(どんざこ)と言う所に、「念仏かくれ窟(くつ)」と呼ばれる洞窟があります。江戸時代に浄土真宗信者が隠れて念仏を唱えていた場所です。

当時の薩摩藩の浄土真宗に対する排斥と弾圧は非常に厳しいものでしたが、熱心な信者は、役人の目を逃れてひそかに信仰を続けました。

その代表的な例が都迫の「念仏かくれ窟」です。今では災害のために崖崩(がけくず)れにあい、入り口もまる見えになっていますが、昔は山の中腹で外部からは容易に発見されにくい所にありました。

入り口から約７m先に小さな部屋があって、空気抜きの穴や仏像を置いたらしい場所が設けてあり、みんなでお祈りできるように工夫してありました。

昔の人の涙ぐましい努力の跡がしのばれる所でもあります。

歴史民俗資料館展示品紹介

0 特別展「錦江湾の自然と生き物たち」

歴史民俗資料館の２階展示場には、鹿児島大学の協力を得て特別展として、錦江湾の魚・野鳥の標本・剥製(はくせい)約300点、水槽にいれた干潟(ひがた)や藻場(もば)の生き物などが展示してあります。また、アルコールに浸したエイやサメにも直接触れることもできます。

市の文化財係では「錦江湾は、あまり身近すぎて知られていない。ぜひ魅力を再発見してほしい」とのこと。みなさんいかがですか、足を運んでみては。

平成25年度ボランティアガイド報告２

① 5月26日　伊集院紙よろい作り普及会
義弘公中心（姶良・加治木）（松元・西田）

② 8月27日　帖佐中学校家庭教育学級
加治木の代表史跡・文化財・義弘ゆかりの史跡
（竹之内・橘木）

③ 9月21日　薩摩川内市郷土誌研究会
義弘ゆかりの地（竹之下・恒吉・坂元）

④ 10月1日　伊集院歴史を語る会
義弘公中心（姶良市）（恒吉・吉田）

⑤ 10月5日　ムーミン講座
加治木地区中心（吉田・濱口）

⑥ 10月20日　郡山地域ふるさとを語る会
蒲生の史跡めぐり（橘木）

⑦ 10月24日　加治木歴史同好会
帖佐地区　（竹之下・松下）

姶郷(あいきょう)

「お手玉でボランティア」

坂元　清美

平成23年3月11日の東日本大震災による被害の大きさは、言葉には表せないほどです。

「あいらお手玉の会」は、山本清洋先生のもとで活動しています。同会では被災地へボランティア活動に行くことになりました。平成24年10月、釜石市の二ヵ所を訪れました。県内の「お手玉の会」の方に頼んで千個のお手玉を作り、釜石市の協力で配布していただきました。九州鹿児島からの訪問という事で楽しみに待っていてくださいました。

「いい湯だな」などの歌に合わせてお手玉をすると「子供のころはよくしたな」「腕が上がらなかったけどよく動いた」など、みなさん笑顔で話して下さいました。私たちも心から喜べた旅になりました。

歴史用語解説

『持国天・毘沙門天』　竹之下　洲一

四天王のうちの二神である。四天王とは仏国土の四方を守護する神のことで、東方持国天・南方増長天・西方広目天・北方多聞天(毘沙門天)の四神。

四天王像が仏像を安置する須弥壇の四方に置かれるのは、このためである。四天王の信仰は飛鳥時代からあり、聖徳太子が四天王を建立したり、また奈良時代の東大寺戒壇院の四天王像は、芸術的にも価値の高いものである。各時代を通じて四天王像は制作された。持国天と毘沙門天のみを安置する場合もあり、二天とよばれている。

編集後記

今回は、宮之城研修と鹿児島研修での内容を紹介いたします。宮之城研修では歴史ボランティア養成講座の皆さんにも参加していただき、感想を寄稿してもらいました。

次回の第21号の発行は、3月ごろを予定しています。テーマを「第２回加治木巡検研修」とし、今まで私たちが知らなかった史跡などの紹介ができるのではないかと思います。